

2025 年度一般選抜 入試対策講座資料 【日本史】



I 次の文章を読み、[]内の語句から最も適切な語句を1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。〔解答用紙 〕(20点)

中国の史書である、いわゆる「魏志」倭人伝には、3世紀の倭人の様子が記されている。法を犯した場合、軽い場合には妻子を没収して奴隷とし、重い場合には「門戸」すなわち犯罪者の一族を滅ぼし、ひいては「宗族」すなわちその本家・分家までも処罰する、とある。既に何らかの法制度が備わっていたらしい。

6世紀初め、九州北部の大豪族であった筑紫君磐井が新羅と結んでヤマトの王権に対する反乱を起こした。8世紀に編纂された風土記のうち『筑後国風土記』は大部分が失われたが、「筑紫君磐井之墓墳」についての記事は伝わっている。その記述は福岡県八女市にある(1)〔㉠ 稲荷山古墳 ㉡ 誉田山古墳 ㉢ 江田船山古墳 ㉣ 造山古墳 ㉤ 岩戸山古墳〕の状態に合致する。(1)は九州北部でも最大級の前方後円墳で、石造りの人や馬の像が多数残っている。『筑後国風土記』によれば、平伏する犯罪者の前に裁判官が立つ姿の石人が据えられていたとある。裁判を行っていた姿を表していたのだらうという。弥生時代の小国家の首長の法務を引き継ぐものようだ。

712年に(2)〔㉠ 太安万侶 ㉡ 藤原仲麻呂 ㉢ 吉備真備 ㉣ 淡海三船 ㉤ 石上宅嗣〕が筆録した『古事記』には、天照大神の弟スサノオノミコトが高天原で乱暴を働いた神話が記されている。怒った天照大神が天の岩戸の中に引きこもって、天地が暗闇に閉ざされた。神々はスサノオノミコトを捕らえて、罪を償う(祓う)献上物「千位の置戸」を課し、ひげと手足の爪とを「切り祓い」、追放したとある。「罪」とは一種の「穢れ」であり、これを浄めることによって神の怒りを鎮め、神罰を防ごうとしたのだらう、という。

646年にいわゆる「改新の詔」を発した(3)〔㉠ 天智天皇 ㉡ 孝謙天皇 ㉢ 孝徳天皇 ㉣ 称徳天皇 ㉤ 文徳天皇〕は、民間において「祓」だと称して紛争解決のために多くの財貨を取り立てる行為が行われているとして、これを禁止した。「犯罪」や「法」に関わる制度を中国の法制度を参考にして改めてゆく動きの一環であるようだ。律令制では、肉体に課す刑罰は「笞・杖・徒・流・死」の「五刑」とされ、「祓」のための奉り物は法制度から分離して、神事において神に捧げ

る奉り物に吸収された。

さて、筑紫君磐井はヤマトの大王から「国造」の称号を与えられていた。(3)の頃から「国造」の支配圏をいくつかの「評」に分割する^{こほり}などして再編成することが始まったという。(4)〔㊶ 平安京 ㊷ 平城京 ㊸ 恭仁京 ㊹ 藤原京 ㊺ 難波京〕で発掘された木簡により、それまで用いられていた「評」の文字を「郡」字に替えたのは、大宝律令によることらしい、ということがわかった。各地で郡司の拠点であった「郡家」^{ぐんけ}の発掘調査が進められて、かつて国造が持っていた裁判を含む地方行政の機能は、9世紀ごろまでは「郡家」を核にして営まれていたことが分かっている。

このように長い歴史をもつ地方豪族の支配が衰えたのは10世紀頃のことで、荘園制を介して中央の寺社・王臣家の支配が地方に浸透してきたからだろうという。郡司らのなかには国司の圧政に反発するものもあった。尾張国の郡司百姓らが988年に国守(5)〔㊻ 藤原仲麻呂 ㊼ 藤原百川 ㊽ 藤原陳忠 ㊾ 藤原純友 ㊿ 藤原元命〕の暴政を訴えたのは、その表れのひとつである。

尾張の郡司らは直属の上司である国司の長官(5)の失政を、国司の上位の官司である太政官に訴えた。直属上司に訴えるのが正規の出訴手続きだという意味から、序列を越えた不当な訴訟であるという意味でこれを「越訴」^{おつそ}と呼ぶ。訴えの内容が正当であれば願いは聞き届けられた。尾張の国守(5)は罷免された。

この背景には、10世紀に国司の課税権限が拡大したことがあった。このため、10世紀には逆に、不輸権を与えられる荘園があらわれ、11世紀になると国衙^{こくが}・中央政府からの使者の入部を免除される不入の特権をもつ荘園があらわれた。不入の荘園は治外法権地のようになり、荘園本所の定めた「本所法」が行われた。のち、不入の荘園でも、荘園領主が荘官御家人の取り締まりを幕府に依頼すると、裁判権が移管されて幕府裁判所で裁判が行われた。

鎌倉時代には「越訴」という語句は「再審請求」の意味で用いられる場合が目立つ。幕府は荘園領主の上位にあるわけではなく、荘園領主の要求するとおりに地頭を処罰することも容易にはできなかった。このため、判決に納得しない者が再審を求める「越訴」が頻発した。幕府の裁判業務が渋滞する原因になったので、幕府は「越訴」の削減に努めた。1297年に、執権の(6)〔㊿ 北条時頼 ㊽ 北条時宗 ㊾〕

北条貞時 ㊦ 北条高時 ㊧ 北条泰時] は、いわゆる永仁の徳政令のなかに、今後は「越訴」を受理しないという規定を盛り込んでみた。しかし、御家人たちには受け容れられず、撤回に追い込まれた。

守護の職権を総称して「大犯三箇条」と呼ぶ幕府法は、足利尊氏の弟 (7) [㊦ 足利持氏 ㊧ 足利成氏 ㊨ 足利義詮 ㊩ 足利直冬 ㊪ 足利直義] が法務を司っていた時期になってあらわれる。守護は「大犯三箇条」以外に手を出してはいけない、という文脈である。使節遵行など、守護の担う業務が急激に拡大していた時期なので、歯止めをかけるのが狙いだったようだ。

17世紀初頭に編まれた『日葡辞書』によれば、戦国時代の民衆世界では、「殺人・放火・盗み」を「大犯三箇条」と呼んでいたという。これらは即座に死刑とされ、犯罪者の住宅は焼き払われる慣習であった。「罪の穢れを祓う」意味で焼かれたと理解されている。江戸時代には、全国どこにも自治を行う村々があり、幕府・諸藩の何れかがこれに乗っかっているという意味で、「幕藩体制」と呼ばれる。

江戸時代前期、百姓身分の代表者が藩主の圧政を幕府に訴えた直訴がみられる。18世紀後半につくられた物語などで有名になった (8) [㊦ 大蔵永常 ㊧ 宮崎安貞 ㊨ 益田四郎時貞 ㊩ 佐倉惣五郎 ㊪ 茶屋四郎次郎] がよく知られている。(8) の直訴が実際に行われたことなのか否かは、明らかではない。ともかく、これらの直訴も、正規ではない手続きによって訴訟した、という意味で「越訴」と呼ばれた。直訴を敢行した者は磔刑などの極刑に処された。犠牲になった代表者はのちに、「義民」と呼ばれて民衆から讃えられた。

全国の幕府直轄領の税務と法務を司っていたのは (9) [㊦ 大番頭 ㊧ 関東取締出役 ㊨ 大目付 ㊩ 若年寄 ㊪ 勘定奉行] である。徳川吉宗のとき、幕府が深刻な財政危機に直面していたため、政務組織全体を、行政・税務を担当する「勝手方」と法務を担当する「公事方」とに分けて、業務の効率化を図った。

老中の松平乗邑が主任になって、大岡忠相らが参画して編集された「公事方御定書」は、庶民を主な対象とする法典である。しかし、幕府の最高幹部だけに共有されたもので、公布された法ではない。裁判の基準を公平にしようとしたものだと考えられている。(9) に登用された (10) [㊦ 本多正信 ㊧ 荻原重秀 ㊨ 神尾春央 ㊩ 柳沢吉保 ㊪ 林羅山] は、年貢徴収率を江戸時代の最高水準に引き上げた。

ただし、(10)は「胡麻の油と百姓は絞れば絞るほどでるものなり」と放言したともいい、評判は良くない。吉宗は川崎宿の名主(11)〔㊶ 田中丘隅 ㊷ 大蔵永常 ㊸ 伊能忠敬 ㊹ 工藤平助 ㊺ 二宮尊徳〕から農政に関する意見書『民間省要』を献上されて、(11)を登用して荒川・酒匂川の治水にあたらせたりもした。

日本人が欧米の人文科学・社会科学を本格的に学んだ最初の舞台は、1857年に幕府の開いた蕃書調所だった。ここに学んだ西周は幕府から派遣されてオランダに留学し、法学・万国公法・経済学・統計学を学んだ。帰国後、徳川慶喜に近侍して、大名を議員とする議会を招集して幕府を支えさせるという案を献じ、大政奉還に参画した。明治維新後は、加藤弘之・津田真道・福沢諭吉ら、幕府と関係の深かった洋学者たちと共に(12)〔㊶ 偕行社 ㊷ 政教社 ㊸ 明六社 ㊹ 立志社 ㊺ 交詢社〕を結成して、西欧の近代的な思想・学術の普及に努めた。

明治政府の初期の立法活動は漢学者たちによって始められた。1870年の『新律綱領』、1873年の『改定律例』は刑法に相当する。明や清の律などを参考にしていた。律令の「五刑」を「懲役」と「死刑」の二本立てにしたが、政府の発した命令に従わない者を裁判官の判断で法によらずに処罰できるとし、罪と罰は法律によって定めるという「罪刑法定主義」の原則をとっていない。人権思想を学ぶ以前の法だった。

佐賀藩出身の(13)〔㊶ 前原一誠 ㊷ 江藤新平 ㊸ 大隈重信 ㊹ 西郷隆盛 ㊺ 山県有朋〕が1872年に司法卿となり、民法典の審議を進めた。しかし、征韓論争に敗れて下野し、1874年、佐賀の乱に敗れて、処刑された。

刑法の制定に貢献するフランス人(14)〔㊶ ロessler ㊷ グナイスト ㊸ シュタイン ㊹ ロッシュ ㊺ ボアソナード〕は、1873年に来日し、司法省法学校でフランス語による授業を始めた。司法省内で拷問が行われていることを目撃し、直ちに拷問の廃止を建議したが、廃止されるまでには数年を要した。

(14)は刑法の作成に取りかかり、1882年に施行された。「罪刑法定主義」をとった点が新しい。のちに、ドイツ刑法に倣って1907年に改正・公布されたものを「新刑法」と称する。第二次大戦後に一部が改定されて、今も用いられている。

明治新政府の指導者たちは近代法制や国際法に通じていなかったもので、(14)は外交交渉にも貢献した。征韓論争のあと、(15)〔㊶ 西郷隆盛 ㊷ 板垣退助 ㊸ 高

杉晋作 ㊦ 大久保利通 ㊧ 江藤新平] は台湾出兵を行った。(14) は (15) に随行して中国に赴き、清との交渉に助言した。条約改正交渉でも、外国人の司法官を日本の裁判所に任用する案に対して、反対の意見書を出してこれを諫めた。

伊藤博文を助けて帝国憲法の起草に尽力した (16) [㊨ 井上馨 ㊩ 井上毅 ㊪ 美濃部達吉 ㊫ 上杉慎吉 ㊬ 陸奥宗光] は、初め (13) のもとで新政府に出仕し、ベルリンに留学した。(15) の随員として台湾出兵の收拾交渉にあたり、才能を認められて、プロシア憲法の内容を日本に紹介した。軍人勅諭・皇室典範・教育勅語の起草にもあたり、内閣制度の設立にも関わった。政府高官たちの発言も (16) の献策によることが多く、明治国家の確立に果たした役割は非常に大きい。

いっぽう、ドイツの国家学において代表的な学者として認められていたドイツ人 (17) [㊭ ロエスレル ㊮ グナイスト ㊯ シュタイン ㊰ ロッシュ ㊱ ボアソナード] が外務省の招聘で1878年に来日し、初め商法の起草にあっていたという。1881年の明治14年の政変のあと、(17) は伊藤博文や (16) とともに憲法草案の起草にあたった。(17) は帝国憲法第1条の「大日本帝国ハ万世一系ノ天皇之ヲ統治ス」という規定を、神話的であって法としては相応しくないとして反対したが、容れられなかったという。

この間、(14) は民法の起草を進め、第1回帝国議会が開催される1890年にその一部が公布された。しかしながら、民法典論争が起こって実施は延期された。1898年に施行されるまでの間に、「家」を国家の基礎に位置づけ、「家」制度を農家・商家などの家族経営に適合させる方向で改められた。のち、日本国憲法の施行に伴って、個人の尊厳と両性の平等を尊重する方向で改められた。

1880年代後半、紡績工場において昼夜2交替の深夜労働が行われるようになり、年少の女工に対する酷使が問題視されるようになった。(18) [㊲ 工部省 ㊳ 内務省 ㊴ 農商務省 ㊵ 文部省 ㊶ 大審院] は1898年に年少者の就業と長時間労働を制限する工場法を起案して議会上程し、続いて各地の実情調査の結果を『職工事情』としてまとめた。しかし、雇い主からの反発が強く、工場法の制定は難航した。逆に1900年には労働者・小作人の団結権・争議権を制限し、女子・未成年者の政治活動を禁止する (19) [㊷ 治安維持法 ㊸ 治安警察法 ㊹ 労働関係調整法 ㊺ 労働基準法 ㊻ 労働組合法] が制定された。

最低年齢12歳，労働時間12時間，女性・年少者の深夜業禁止ということ盛り込んだ工場法は，1911年によりやく公布されたが，実施は1916年まで延期とされた。(19) で制限された労働者・小作人の団結権・争議権については，反対運動の結果として，1926年に制限が削除された。とはいえ，日本国憲法の施行まで，国民の社会権（生活権）に対する法的な保護は非常に弱かったのだ。

日本国憲法の特徴の一つである平和主義と関係が深いのは，1928年に締結されたいわゆるパリ不戦条約「戦争抛棄ニ関スル条約」である。「国際紛争解決ノ為戦争ニ訴フルコトヲ非トシ」「相互関係ニ於テ国家ノ政策ノ手段トシテノ戦争ヲ抛棄スル」ことを協定し，日本も批准した。国連憲章に繋がる戦争違法化の過程の一段階として位置づけられている。

ポツダム宣言の受諾後，日本統治にあたった連合国軍最高司令官マッカーサーは，1945年10月に発足した(20)〔㉠ 幣原喜重郎 ㉡ 若槻礼次郎 ㉢ 東久邇宮稔彦 ㉣ 鳩山一郎 ㉤ 吉田茂〕内閣に対して，婦人参政権，労働組合結成の奨励，教育の自由主義化などを内容とする五大改革指令を行うとともに，憲法の改定を求めた。(20) 内閣が帝国憲法の改正に消極的だったため，マッカーサーは1946年2月に日本の戦争放棄と軍隊・交戦権の不保持などの条項を含む憲法改正案を提示した。日本側もこれに従い，日本国憲法が制定された。とはいえ，国民主権，戦争放棄（平和主義）などの基本原則について，政府・議会が合意することは容易ではなく，決定までに紆余曲折を辿っている。

1998年には160か国が参加した国連外交会議（ローマ会議）で，ジェノサイドなどの重大な犯罪を犯した個人を，当該国が裁くことができない時にその政府に代わって裁く，国際刑事裁判所（ICC）の創設が決定された。2003年に発足し，わが国は2007年に参加した。国家間の紛争を裁く国連の機関である国際司法裁判所（ICJ）とともに，ロシア・ウクライナ戦争やパレスチナにおける人道危機などに関して，訴追・勧告を行って注目されている。平和・人権・安全を実現するためのルール作りとその実現のためには，不断の努力が必要なのである。

IV 次の文章を読み、(1)～(10)の空欄と下線部、および(A)(B)の空欄について、下記の設問に答えなさい。〔解答用紙記述〕(20点)

794年に桓武天皇は (1) 京から平安京へ都を遷した。 (1) 京の造営を推進した藤原種継⁽²⁾は785年に射られて命を落とし、この事件に関わったとして幽閉された皇太子早良親王は無実を訴えて食を絶ち、配流先の淡路国に送られる途上で絶命した。新たに皇太子となった安殿親王は792年には病床に伏してしまい、早良親王の祟りが原因とされた。こうした状況を刷新するため、桓武天皇は (3) たちの意見を入れて遷都することにしたのである。

平安京に遷都した後、806年に桓武天皇が亡くなると、安殿親王は即位し平城天皇として行政改革に取り組んだ。しかし、弟の伊予親王が謀反の嫌疑を受けて自害すると、その怨霊に悩まされ病を再発した。平城天皇は809年に弟の神野親王(嵯峨天皇)に皇位を譲って太上天皇となり、かつての平城宮の地に移り住んだ。嵯峨天皇は平安京にいたが、詔勅の発令に携わる尚侍の藤原薬子や多数の官僚が平城太上天皇に率いられて平城宮におり、あたかも朝廷が二カ所に存在し対立するような状況となった。810年には平城太上天皇が平城京への遷都まで命じたため、嵯峨天皇は薬子を尚侍の職から解任し、太上天皇が頼りとした薬子の兄の藤原仲成を射殺し、東国への逃亡を試みた太上天皇を (4) の活躍によって阻止し、事態を収拾した。

こうして危機を乗り越えた嵯峨天皇は、平安京の安泰を祈るため、平安京の北東側にあった賀茂神社を重んじ、娘の有智子内親王を斎院(賀茂斎王)として祀らせた。また、平安京の中樞である平安宮の南に隣接して設けられた神泉苑では、雨乞いや宴などが行われ、空海が雨乞いを行ったこともあった。その後、政治的不遇によって恨みを抱いた人物の怨霊の影響が懸念されるようになると、863年には早良親王をはじめとする複数の怨霊を鎮めるための (5) が神泉苑で行われた。

平安京は東を鴨川(賀茂川)、西を葛野川⁽⁶⁾に挟まれており、物資運搬のための河川交通の便もあったが、たびたび水害にも襲われた。葛野川の氾濫によって被害を受けることが多かったためか、右京の側は左京ほど賑やかにはならなかった。その一方で、左京の東を流れる鴨川の近くには、権力を持った貴族⁽⁷⁾の邸宅もあり、人々

は鴨川沿いの地に経済活動の場を求めようになっていく。そして、鴨川を超えた東側までが都市の機能を持って発達していった。(8) こうして、都市としての京は、当初の平安京よりも東寄りにずれた位置関係で発展していく。鴨川の東には、武家の拠点も置かれるようになった。(9)

平安京左京は都の東半分にあたるが、中国での唐の時代における西の都の長安と東の都の洛陽になぞらえて、左京は洛陽にたとえられた。やがて、左京の範囲は (A) ，左京の外側にあたる地域は (B) と呼ばれるようになった。(10)

〔設問〕

- (1) (1) にあてはまる地名を答えなさい。
- (2) 下線部 (2) に関して、藤原種継は藤原四家のうちの式家の出自であった。藤原四家はそれぞれ藤原不比等の四人の子を始祖とするが、式家の始祖となった不比等の子は誰か。その人名を答えなさい。
- (3) (3) にあてはまる人物は、称徳天皇からの信頼が厚かったため、道鏡を皇位につけよという八幡神の神託を確認するために、769年に宇佐八幡宮に派遣された。この人名を答えなさい。
- (4) (4) にあてはまる人物は、蝦夷との戦争において活躍し、797年には征夷大將軍となって、胆沢城や志波城を造営したことでも知られる。この人名を答えなさい。
- (5) (5) にあてはまる用語を、漢字3文字で答えなさい。
- (6) 下線部 (6) に関して、葛野川は現在は桂川と呼ばれているが、この川沿いの地に、江戸時代の初期に後陽成天皇の弟が別邸を造営した。数寄屋造の書院建築や回遊式庭園などで知られているこの邸宅の名称を答えなさい。
- (7) 下線部 (7) に関して、藤原良房の邸宅であった染殿も、平安京の東端に面して設けられていた。866年に起きた政変で伴氏や紀氏が排斥されるなどして良房は権力を高め、結果的に藤原氏として最初の摂政の地位に任じられることとなる。この866年に起きた政変は何と呼ばれているか、その名称を答えなさい。

- (8) 下線部 (8) に関して、都市として多くの人々が集住するようになると、人々の救済のために教えを説く僧侶も都市内外を廻って活動を見せるようになった。10世紀には、ある僧侶が京の市で念仏の功德を説いて庶民に浄土教を広め、「市^{いちのひじり}聖」とも呼ばれた。この僧侶の名を答えなさい。
- (9) 鴨川の東には、平家棟梁の清盛の根拠地もあったが、その地は平家滅亡後に源頼朝の手に移った。のちにこれに隣接して、鎌倉幕府は、京の朝廷の監視および西国御家人の統轄のために、1221年に幕府の出先機関を置いた。この機関の名称を答えなさい。
- (10) 下線部 (10) および に関して、戦国時代から近世初期にかけて、京の街のようすを描いた『 図屏風』がいくつか作られた。それらの中には、織田信長が上杉謙信に贈ったとされるものも現存している。 にあてはまる語句を答えなさい。

Ⅲ 次の文章を読み、(1)～(10)の空欄および下線部について、下記の設問に答えなさい。〔解答用紙マ-7〕（20点）

日清戦争勝利の結果、日本は台湾を領有することとなり、1895年に台湾総督府を⁽¹⁾設置した。それまで日本との関係が乏しかった複数の民族の居住する新たな領土の占領であり、初期には台湾住民の強い抵抗に対応するために軍政が敷かれた。総督府のトップとなる初代台湾総督には、海軍大将の樺山資紀⁽²⁾が就任した。その後、民政に移行したものの、長期にわたって台湾総督は陸海軍人に限られ、1919年に初めて、文官の田健治郎⁽³⁾が台湾総督に就任した。

日本による台湾統治に対する住民の抵抗は強く、各地でゲリラ戦を展開、これを日本軍や総督府が弾圧して治めていった。1898年に第4代台湾総督に児玉源太郎が就任し、その片腕として、民政局長（のち民政長官）に〔(4)〕が就任してから、台湾におけるインフラ整備（水利灌漑施設、教育制度、医療・衛生環境の整備など）が本格的に進み始めた。なお、〔(4)〕は、のちに南満州鉄道初代総裁、内務大臣などを歴任し、関東大震災後には東京の復興案を立てるなどした。

〔(4)〕に請われて台湾総督府の初代殖産局長となった人物である〔(5)〕は、1901年、「〔(6)〕改良意見書」を提出し、台湾における有望な産業として〔(6)〕の振興を強調した。台湾総督府は、これに基づいて振興政策を推進、生産量が増大していった。

そのほかに台湾の特産品として注目すべきものに樟脳がある。樟脳は、セルロイドの原料などに使用され、日本の樟脳生産は一時期、世界の3分の2強を占め、その大半が台湾において生産された。樟脳に関しては、鈴木商店⁽⁷⁾の金子直吉が〔(4)〕らに働きかけた結果、専売制度が取られることとなり、樟脳油の多くの販売権を獲得した鈴木商店は、これを契機に大きく発展した。

1918年の日本国内における米騒動を契機に、日本政府は朝鮮半島、台湾における米の増産を政策的に推進するために、朝鮮半島において産米増殖計画が立てられた。また、台湾に適した品種として日本向けの「蓬莱米」が開発され、次第に台湾に普及していった。これにともない、〔(6)〕の原料となる甘蔗栽培と米作との競合が生じた。このことは、〔(6)〕にとっては原料価格の高騰要因となった

が、台湾農業における新たなビジネスチャンスともなった。また、台湾など外地からの移入米の増加は、のちに、日本における米価下落の一因とも考えられた。⁽⁸⁾⁽⁹⁾

以上のように、台湾は、長く日本統治下の植民地の歴史をたどった。しかし、第二次世界大戦中、1943年末、アメリカ・イギリス・中華民国国民政府の首脳会談を受けて発表された (10) の中で、連合国の戦争目的の一つとして、日本が台湾を中華民国に返還することなどの内容が盛り込まれた。

〔設問〕

- (1) 1887年に『国民之友』を創刊し、「平民主義」を掲げていた人物が、下線部(1)の日清戦争を契機に對外膨張論を主張し、さらに日清戦争後に三国干渉を受けると、国家主義的傾向を強めていった。この人物名を以下の選択肢から1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。

㉠ 高山樗牛 ㉡ 徳富蘇峰 ㉢ 黒岩涙香 ㉣ 徳富蘆花
㉤ 田口卯吉

- (2) 下線部(2)の樺山資紀は、日清戦争直前の1894年7月、海軍の動員や作戦計画にあたる長官職に任命された。この職名を以下の選択肢から1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。

㉠ 連合艦隊司令長官 ㉡ 海軍大臣 ㉢ 海軍軍令部長
㉣ 統合幕僚長 ㉤ 海軍元帥

- (3) 下線部(3)について、田健治郎の台湾総督就任にあたっては、台湾総督の軍人専任を改めようとする当時の内閣総理大臣の意向が作用したものとされる。この時の内閣総理大臣の人名を以下の選択肢から1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。

㉠ 高橋是清 ㉡ 加藤友三郎 ㉢ 加藤高明 ㉣ 大隈重信
㉤ 原敬

- (4) (4) にあてはまる人物名を以下の選択肢から1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。

㉠ 後藤新平 ㉡ 江藤新平 ㉢ 乃木希典 ㉣ 桂太郎
㉤ 三浦梧楼

- (5) (5) の人物は、農業経済学者であったが、「武士道」を英文で書き上げて日本文化を紹介し、1920年代には国際連盟事務次長に就任するなど、国際的にも活躍した。 (5) にあてはまる人物名を以下の選択肢から1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。
- Ⓐ 河上肇 Ⓑ 横山源之助 Ⓒ 新渡戸稲造 Ⓓ 大内兵衛
Ⓔ 矢内原忠雄
- (6) (6) にあてはまる産業の名称として最も適当なものを以下の選択肢から1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。
- Ⓐ 塩業 Ⓑ 窯業 Ⓒ 水産業 Ⓓ 糖業 Ⓔ 林業
- (7) 下線部 (7) の鈴木商店は、第一次世界大戦後の激しい恐慌によって大きな打撃を受けた。この時期の日本経済の動きに関して適切でない記述を以下の選択肢のうちから1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。
- Ⓐ 1919年ごろから、重化学工業製品の輸入が増加し、日本国内の重化学工業の生産を圧迫した。
Ⓑ 第一次大戦期に商品先物市場で投機的活動を行っていた業者の多くが、1920年の戦後恐慌で大きな打撃を受けた。
Ⓒ 1920年の戦後恐慌では、綿糸など商品相場は大きく下落したものの、日本企業への成長期待が大きく、株式市場の株価は全く下落することなく、上昇を続けた。
Ⓓ 第一次世界大戦後、ヨーロッパの復興が進み、アジアにおいてもヨーロッパ諸国の輸出商品が増加するようになってきたため、日本企業は打撃を受けた。
Ⓔ 1917年に金輸出禁止がなされ、金本位制の機能が制限されたことから、日本円の為替レートは安定せず、1920年代にかけて比較的大きく変動するようになった。
- (8) 下線部 (8) の「外地」は公的な用語ではないが、「内地」に対するものとして、戦前期において、台湾、樺太、朝鮮、南洋諸島等を指す呼称として一般に用いられた。「外地」のうち、南洋諸島（南洋群島）は、第一次大戦時に日本が占領した赤道以北のドイツ領をもとに、のちに国際連盟により認め

られた委任統治領であった。国際連盟の委任統治領となった日本の南洋諸島に含まれる地域として適切なものを以下の選択肢のうちから、1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。

- ㉠ グアム島 ㉡ パラオ諸島 ㉢ ガダルカナル島
㉣ レイテ島 ㉤ ビスマルク諸島

(9) 下線部 (9) の米価だけでなく、1920年代末から1930年代初めにかけて、日本国内では、繭、化学肥料など多くの商品の価格が低下した。このような価格低下には多様な要因が作用しているものと考えられるが、この時期の日本国内における多くの商品の価格低下の要因として、適切でないものを以下の選択肢のうちから、1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。

- ㉠ 浜口雄幸内閣のもとの金輸出解禁
㉡ 井上準之助蔵相が進めた緊縮財政政策
㉢ アメリカでの株価暴落を契機に始まった世界恐慌
㉣ 日本に輸入される商品に対する関税の引き上げ
㉤ 海外企業が大量生産して供給過剰となった製品の日本への輸出

(10) にあてはまる語句を以下の選択肢のうちから、1つ選び、その符号を解答欄にマークしなさい。

- ㉠ 連合国共同宣言 ㉡ 大東亜共同宣言 ㉢ 大西洋憲章
㉣ ポツダム宣言 ㉤ カイロ宣言

[文学部問題より]

V 松方財政について，指定された行数（7行）の範囲で述べなさい。〔解答用紙
記述〕（20点）

問題の抜粋は以上です。